

学校改革！教職員の時間創造プロジェクト

～働きやすい環境づくりのために～

ニュースレター

2022年9月

Vo.5

サルスベリ

年休取得推進分科会を開催しました



今年度は、部活動をはじめとする重点課題、職種や校種ごとの課題について、学校改革！教職員の時間創造プロジェクト会議下に分科会を設け、少人数での意見交換と協議を進めています。7月から8月にかけて、8つの分科会全ての第1回目が先日終了し、今回は7月5日（火）に開催しました『年休取得推進分科会』についてご報告いたします。（分科会の詳細は次ページに載せております。）

時間創造プログラムに掲げています『教職員1人あたりの年休の年間平均取得日数16日以上』の達成に向け、各学校と園で取組を進めていただいております。今回の会議では、参加された先生方の学校での取組の様子や年休取得推進のための今後の取組について協議しました。

【年休取得推進分科会メンバー】

力合小 馬場康弘 校長
北部中 水田貴光 校長
長嶺小 中島尚子 教頭
託麻中 桑野淳二 教頭
西原小 荻迫和也 先生
二岡中 西野聡一郎 先生
黒髪小 山口真由美 先生

- ・校種別では、中学校や幼稚園、職種別では、校長・教頭・養護教諭の年休取得日数が低い状況。
- ・昨年度は、閉庁日なども工夫し取り組んだ結果、教諭等の年休の平均取得日数が増えたが、反面、管理職が取れていなかった。今年は、管理職も休むと公言した。
- ・誰かが休んだ時に、サポートに入りやすい雰囲気づくりや、子どもを学年全体で見るような体制づくりが普段から必要なのではないか。
- ・教育センターでは、閉庁日の前後は研修を入れないようにし、オンライン開催研修を増やした。

年休取得推進に限らず、先生方の働き方改革を進めていくためには、職場の雰囲気づくりと支援体制、教育委員会事務局の全体的な取組が重要であると確認しました。今後も、学校と事務局共に取組を進めていきます。

年休取得状況について

目標3

教職員1人あたりの年休の
年間平均取得日数

16日以上

年休取得の推進については、プログラムの目標3に掲げています。さらに今年度は、部活動改革とともに重点的に取り組む項目の一つとしています。平成29年から令和3年までの実績は以下のようになっています。

	H29(2017) 【基準】	H30(2018)	H31・R1 (2019)	R2(2020)	R3(2021)
平均取得日数	11.9日	11.5日	10.9日	10.1日	12.2日

桜山中・東町中・二岡中の先生方へインタビュー



普段から『自分・家族ファーストで〇時には帰ろう』と呼びかけています。具体的には、日課の工夫として職員朝会をせず、1時間目開始時刻を早めることで部活終了時刻を18時としています。また、毎週水曜日はノー部活デーとし、定時退勤を徹底するようにしています。

桜山中学校 田口恵子 校長

先生方の時間に対する意識改革が必要だと感じました。『今日は、〇時までね！』と声をかけ、見守っています。また、個々の業務内容を一緒に見直していく中で、他の職員でもできることや学年等で分担できることなどないか考えています。まずは、人間関係づくりが大切だと思います。

二岡中学校 安方史宜 教頭



中学校での年休取得推進に向けた取組

- ①【雰囲気づくり】すべての学校において、管理職の先生方からの声かけや、「帰りやすい・休みを取りやすい」環境が大きく影響しているようです。
- ②【チーム体制】東町中学校では、見通しをもって学年の先生方や教務の先生とで授業の調整をすることで、計画的に年休取得が行われています。
- ③【日課の工夫】桜山中学校では、1時間目の開始時刻を8:35とするなどの日課の工夫により16時には放課後の活動が開始できるようにされています。

本校に赴任した4年前は毎日遅くまで残っている職員がいましたが、『今日は〇時には切り上げよう』と目標を設定し、仕事の仕方や時間の使い方を見直してもらうようにしたら、徐々に意識が変わってきました。

また、学校全体で協働体制を整えることで、自分のため・家族のための年休取得を進めています。

東町中学校 古賀義久 校長



プロジェクト会議 及び各分科会について

今年度も、教育委員会事務局と園・学校現場の代表が、働き方改革のプログラムにおける取組内容の進捗や実績などについての検証や、新たな課題についての協議を行う場として、学校改革！時間創造プロジェクト会議を設置しています。

また、プログラムに掲げる各取組を着実に推進するとともに、今年度は部活動をはじめとする重点課題、職種や校種ごとの課題について、プロジェクト会議下に分科会を設け、少人数での意見交換と協議を進めています。

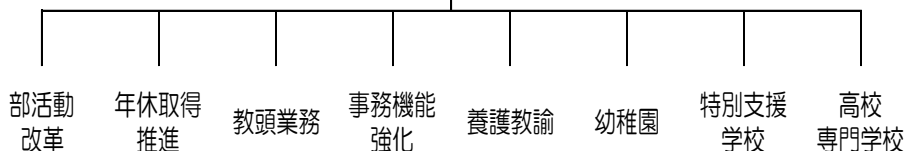
分科会については、教頭業務・事務機能強化・養護教諭の職種、幼稚園・特別支援学校・高等学校と専門学校の校種、さらに今年度の重点取組事項である年休取得推進と部活動のあり方についての計8分科会を設置し、7月・8月で全分科会の第1回目を行いました。分科会の内容については、今後のニュースレター等でも報告いたします。また、各分科会で出された意見については、今後事務局内で対応を検討していきます。

学校改革！教職員の時間創造 プロジェクトチーム メンバー

力合小 馬場康弘 校長
北部中 水田貴光 校長
長嶺小 中島尚子 教頭
託麻中 桑野淳二 教頭
西原小 荻迫和也 先生
二岡中 西野聡一郎 先生
健軍小 工藤あけみ 先生(養護)
日吉小 山下貴子 先生(事務)
千原台高校 南弘一 校長
川尻幼稚園 栗崎恵子 園長
平成さくら支援学校 竹内賢二 校長
総合ビジネス専門学校 古家幸生 校長
黒髪小 山口真由美 先生
錦ヶ丘中 土井一宏 先生(事務)
教育次長・部長・各課長



プロジェクト会議



※ 部活動改革分科会は『部活動のあり方検討会』として別途計画実施

学校閉庁日 について

熊本市教育委員会では、「保護者や地域の方からの問い合わせ等へ対応する日直を置かずに、対外的に『学校閉庁日』であることを示すことができる日」と定義し、平成30年度から学校閉庁日を設け、年次有給休暇や夏季休暇の積極的な取得を推進しています。夏季休業中における設定日数の推移は以下のようになっています。

	H30 年度	H31 (R1) 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
小学校	3.2 日	3.7 日	4.7 日	8.3 日	8.7 日
中学校	3.1 日	3.3 日	3.8 日	4.2 日	4.7 日
高等学校	3.0 日	3.0 日	3.0 日	3.5 日	4.0 日
支援学校	3.0 日	3.0 日	3.5 日	5.5 日	5.5 日
幼稚園	3.3 日	3.7 日	4.3 日	8.5 日	9.0 日
専門学校	3.0 日	3.0 日	3.0 日	6.0 日	7.0 日
全校	3.2 日	3.6 日	4.4 日	7.0 日	7.4 日

夏季休業中においては、本年度の学校閉庁日の平均日数は7.4日で、設定初年度から年々増加しています。なお、最長では12日間（8月6日から8月17日）を設定されている学校がありました。また、8月のお盆前後だけでなく、8月下旬にも閉庁日を設定するなど工夫されている学校もありました。

感染状況が収まらない中での2学期のスタート、大変なことも多いかと思います。子どもたちも先生方も元気に笑顔で活動ができることを願っています。次号では、職種別の分科会の様子をお伝えします。

